

信 通 寺 覺 本

Vol.11 平成 24 年 秋彼岸号 発行：住職 河村隆哲
〒230-0073 横浜市鶴見区獅子ヶ谷 2-6-32 Tel/FAX: 045-575-7855 E-mail: info@hongakuji.com
URL: <http://www.hongakuji.com> Twitter: @hongakuji Facebook: 天台宗 本覺寺

三車火宅の喩

住職 河村隆哲

皆さんは、『法華経』というお経の題名を聞いたことがありますか。

『法華経』は、正式とは、『妙法蓮華経』といい、インドの言葉では、サツダルマ・プンダリカ・スートラ（正しい教えである白い蓮の花のお経）という意味になります。

『法華経』は、全二十八の章から成り立っているお経です。

天台宗では、『法華経』を根本經典とし、日常の朝夕の勤行時・年回忌法要・葬儀の時などに、如来寿命品・観世音菩薩普門品などの『法華経』を読誦しています。

さて、この『法華経』は、文学性豊かな經典としても有名なお経の一つです。そのとき、よく引

用されのが、「法華七喩」（ほつけしちゆ）と言われる譬え話です。

- 一、三車火宅の喩
- 二、長者窮子の喩
- 三、三草二木の喩
- 四、化城宝処の喩
- 五、衣裏繫珠の喩
- 六、髻中明珠の喩
- 七、良医治子の喩



今回は、七つの譬え話の中でも一番始めに登場する「三車火宅の喩」についてお話したいと思います。

あるところに一人の年老いた長者がいました。とても富裕で、田畑や邸宅などを多数持っていま

した。長者の邸宅は広大でしたが、ただ一つの狭い門しかありませんでした。

あるとき、長者が外に出ているときに、この邸宅に突然火事が起こりました。火事と聞いた長者が邸宅に帰ってみると、燃えさかる邸宅の中では、長者の子どもたちが今にも火に焼かれそうになりながらも遊び続けていました。

また、子どもたちの傍らでは犬などがお互いに喰らいあっていたり、悪虫が地面を這いずり回っていたりというありさまなのに、子どもたちは、身の危険にも気づかず、遊び惚けている状態でした。

長者は、「速やかに脱出しなさい。」と叫ぶのですが、子どもたちは耳を貸しません。

長者は、子どもたちが

以前から、羊の車、鹿の車、牛の車を欲しいと言っていたことを思い出し、子どもたちに向って、「子どもたちに向って、子どもたち、門の外には以前から欲しがっていた羊の車、鹿の車、牛の車があるから、早く出てきなさい。」と叫びました。

子どもたちは、長者の言葉を聞いて、前から欲しかった物がもらえると、一目散に門から出てきて、長者の前に行きました。

長者は、子どもたちの欲しがっていた羊の車、鹿の車、牛の車ではなく、これらのよりもっと価値のある「大白牛車」を与えました。

子どもたちは、今にも燃え落ちそうな火宅を逃れ、安穩な世界に至ることができました。

というお話です。この譬え話は何を表しているのでしょうか。この譬え話に出てくる

長者とは「如来」、すなわち「仏様」を指し、子どもは「衆生」、すなわち「我われ」を指します。

火宅は欲界・色界・無色界の「三界」を指します。「三界」とは、生死を繰り返しながら輪廻する世界を三つに分けたものです。

我われが生老病死などの様々な苦しみに迫られながら、その苦しみにより没し、遊び戯れて、輪廻を解脱しようとしないう姿が、子どもたちが火宅の中で遊び戯れて脱出しない姿に譬えられています。

仏様は我々の父ですから、苦難から救済しようと思ひ、声聞乗（羊の車）、縁覚乗（鹿の車）、仏乗（牛の車）という三つの教えを説いて、我々を導き、火宅から脱出させてくださいました。

脱出してみると今まで

の教えでなく、一仏乗

（大白牛車）を我われに示し、三つの教えは実は一つであったということをお教えてくださっています。

昨今、原発の問題や環境問題など身の回りに危険がたくさんあるのに、私たちだけは大丈夫と思っていませんか。

この「三車火宅の喩」を参考に自分だけの事だけではなく、広い視野に立って物事を冷静に考えてみてはいかがでしょうか。

獅子ヶ谷・本覺寺今昔

今回から「獅子ヶ谷・本覺寺今昔」と題して、檀信徒の皆様から獅子ヶ谷・本覺寺の歴史や思い出などについて、ご寄稿いただくコーナーを開設いたします。

第一回目として、檀家総代の横溝眞一さんにご寄稿いただきました。

獅子ヶ谷と本覺寺の昔

総代 横溝眞一

早いもので本堂が落成してから二十五年になるうとしている。当初は木の香りの強かった木造建築だが、風雪に磨かれて近年はある種の風格さえ感じられて、やはりコンクリートでなくてよかったなと感慨深い。落慶法要の際の稚児行列の子供達も立派な成人である。

私が父の急逝に伴い総代を継いだのは本堂着工の三年前で、当初は田舎の慣習や屋号など知らないことが多く、また本業を始めたばかりで忙しく、当惑うことが多かったが、建設委員、後の役員の方々の合議によって本堂および庫裡の新築にこぎつけることができた。すでに鬼籍に入られた方も多く、御冥福をお祈りする次第である。

私は江戸時代初期の本覺寺創建に拘る初代横溝七郎兵衛から数えて13代に当る。この間私の先祖

は多数の分家の方々ともども、原谷戸と呼ばれる地域で農業を営んできた。また本覺寺の檀家には灰ヶ久保と呼ばれる地域の方々もおられ、両谷戸が協力して本覺寺と上神明社を信仰し、バックアップしてきたのである。

私の祖父は先代が早逝されたため、六十年以上の長きにわたって本覺寺総代としてその盛衰を見てきた。その一部を紹介したい。

戦前の寺は橘郡旭村役場の支所のような役割もあつたようで、当時祖父の書いた登記簿なども実存している。当時の本堂は草葺屋根で寺領も広く、現在より境内も広がった。また医療の未発達な頃とて、幼児の死亡や伝染病による死亡も多く、同時期の没年を示す墓石が多いのはこのためである。

昭和二十年五月の横浜大空襲では、一時鎮火したものの夜になって再燃し、

全伽藍が焼失した。ちなみに上神明社も同時期に焼失している。

戦後ささやかな仮本堂が再建されたが、大規模な行事を行なえる広さはなく、施餓鬼法要はごく限られた人数で行なわれた。当時の檀家は原谷戸と灰ヶ久保の農家とその出身者が殆んどで、境内の清掃も自家で行なう時代であつた。盆前など野菜の出荷の合い間に草刈りや墓石の修理をするのもあたりまえであつた。

葬儀は葬祭社を使わず、各谷戸の農家を中心となつて催行する慣例であつた。この講中と呼ばれるムラ社会における互助組織は婚姻の際も同様であり、原谷戸では今でも存続している。本覺寺参道における「野辺の送り」は鐘やドラの音に包まれて肅々と行われているが、今や横浜では貴重な伝統と言われている。

かくして本堂の再建と

庫裡の建築は原谷戸と灰ヶ久保の戦後長きにわたる懸案であつたわけであるが、その先鞭をつけるべき私の父と、当時の住職の逝去が重なり、建設委員会が設立され、昭和六十三年の落慶法要を迎えるに至つたのである。

以上思いつくままに本覺寺に関する昔話を記してみたが、お若い方、近年入檀された方々の参考になれば幸いである。

本稿は、檀信徒の皆様に順次書いていただきたいとの住職の意向であり、とりあえず初回を担当させていただいた。

本覺寺では「本覺寺通信」のみならず、各種イベントも企画されており、日本の伝統文化を記録し、伝達するよう努めている。寺が宗教的道場としてだけでなく、地域の文化的精神的な支柱となることを期待するものである。

仏教あれこれ（二）

散華（さんげ）

当山の大施餓鬼会や様々な法要の際に紙で出来た華びらを参じます。それが散華です。

仏様が来迎した際に、讃歎するために大衆や天部の神により華を降らしたという故事にちなんで行われます。

寺院で法要を行う際に、仏様を供養するため、また、華の芳香によって悪い鬼神などを払い、道場を清めるて仏様を迎えるために散華を行います。

本来は、蓮などの生花が使われていました。



行事報告

◎七月三十日

鶴見区仏教婦人会主催
「盂蘭盆会」灯籠供養

鶴見川岸にある佃野公園にて、毎年恒例の灯籠供養が開催されました。

当日は、鶴見区内にあるご寺院の檀信徒の皆様にもご参列いただき、灯籠を飾り、ご供養させていただきました。



◎八月九日

本覺寺盂蘭盆会大施餓鬼会

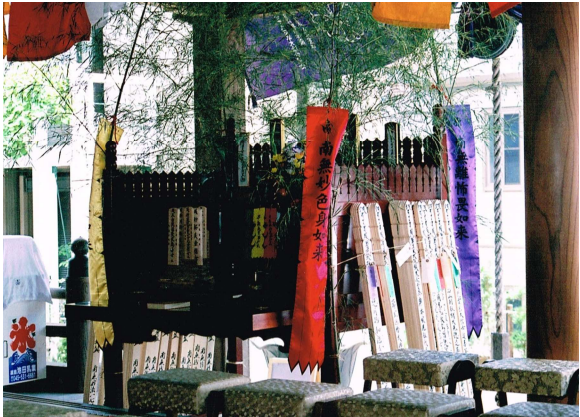
当山本堂において、天台宗神奈川教区横浜南部諸大徳ご出仕のもと、盂蘭盆会大施餓鬼法要を厳修いたしました。

法要に先立って、天台宗布教師 鶴見区下末吉宝塔寺副住職 榎本渡成師による御法話をいただきました。

盛夏の暑さの中、八十名余の檀信徒の皆様にご参列いただき、無事に檀信徒各家のご先祖様のご供養をさせていただきました。



昼間秀雄氏撮影



昼間秀雄氏撮影

◎八月十八日

東日本大震災慰霊・復興祈願「萬燈会」

当山本堂前・境内において、三年目になる「萬燈会」を開催させていただきました。

当日は、東日本大震災慰霊・復興祈願並びに灯籠の供養法要を厳修し、その後、飲み物のご接待、お子さまを中心に、花火やくじ引きなどを行って、夏の夜ひと時を過ごしていただきました。

また、今年は、総代の横溝眞一さんが制作してくださいました竹灯籠も加わり、とても盛大な会となりました。

檀信徒の皆様のお蔭で年々灯籠の数も増え、にぎやかな「萬燈会」を開催することができました。

ちょうど、鶴見川の花火とも重なり、当山から大きな花火を見ることができました。

行事案内

◎毎月第一日曜日開催

「写経会」

九月より当山客殿において、写経会を開催しております。

般若心経、七仏通戒偈・円頓章などの写経用紙をご用意しております。

道具等はお寺でもご用意しております。

椅子席もご用意しております。

一筆一筆、精神を集中して、写経をしてみませんか。

平成二十四年開催日

十月七日（日）

十一月四日（日）



昼間秀雄氏撮影

十二月二日（日）
時間…午後三時から
一時間程度



◎毎月第四日曜日開催
「坐禅会」

十月より当山本堂において、坐禅会を開催いたします。

獅子ヶ谷市民の森に隣接する当山の本堂にて、山の空気を感じながら坐禅をしてみませんか。

所要時間は約一時間です。

動きやすい服装でお越しください。

初めての方も安心してご参加いただけます。

なお、本堂の収容人数の関係で、申込方式となっております。

参加希望の方は当山（〇四五―五七五―七八五五）ま

で事前に申込ください

平成二十四年開催日

十月二十八日（日）

十一月二十五日（日）

十二月二十三日（日）

時間…午後四時から

一時間程度



◎九月二十二・二十三日開催

手仕事フォーラム主催
旅するシルタ「日本手仕事良品展」

三月の春の彼岸会の期間に開催した「日本手仕事良品展」をこの秋の彼岸会

の中日にあたる二十二日と二十三日に当山の客殿にて開催いたします。

手仕事フォーラムは今の日本の手仕事を守り、取り入れた生活の素晴らしさを広めていく活動を行

っています。

「旅するシルタ」一つ一つの

手で作られた手仕事の良品を、現在のライフス

タイルに合った形で提案していく展示会です。

ぜひ、お誘い合わせの上、遊びに来てください。

詳細は、同封のご案内を参照ください。

◎十月八日開催

ヨガ&ヘナアート体験

今回で三回目となるヨガ体験を開催いたします。

今回も前回と引き続き、シンキングボウルの生演奏の中、ヨガを体験していただけます。

また、今回は、ヨガ終了後の茶話会の時に、ヘナアートの体験もごさいます。

ヘナアートとは、ヘナ



（植物）で体に絵を描くもので、消えるタトゥーと言

われています。インドでは花嫁さんが腕に描いたり

しています。

ぜひ、お誘い合わせの上、本覺寺までお申込みくだ

さい。

詳細は同封のご案内をご参照ください。

◎天台宗一隅募金について

毎年、当山の大施餓鬼会と萬燈会の灯籠冥加料を天台宗一隅募金に寄附しております。

今年は、総額十万五千九百六十円のご寄附をいただきました。

八月二十二日付けにて、天台宗一隅を照らす運動



お知らせ

編集後記

先日、若手の僧職と神職の勉強会「神仏和合」が、東京の神田明神で開催されました。

私も参加し、神道について、神職の階位や世襲について、靖国神社問題など神職と僧侶が忌憚のない意見交換を行いました。

全国には、寺院が七万ヶ寺、神社が八万社、合計十五万寺社があります。

心の時代の今こそ、寺院と神社が手を携える必要を感じました。 住職

総本部にて寄附させていただきました。皆様からのご寄附は、様々な災害の救援金と里親育英金として活用されます。

◎墓地の供物について

当山墓地にて、カラスが供花を抜いたり、お供物を荒らしたり、糞をかけるといった被害がでています。

お参りの際にお供えになるお供物（食物・飲料）はなるべくその場で仏様と分かち合い召し上がる、またはお持ち帰りになり、墓地にお残しになりませんようご協力をお願いいたします。